●薬価基準収載医薬品 (2021.5.26) – 報告品目・新キット製品 –

【6成分10品目】

内用薬

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考(薬効薬理、作用機序、注意事項など)								
5/26	ウィルソン病治療剤(銅吸収阻害剤) 低亜鉛血症治療剤	ノバルジン顆粒5%	5%1g	548.80	ノーベル ファーマ	酢酸亜鉛水和物	○ウィルソン病 (肝レンズ核変性症)	成人には、亜鉛として、通常1回50mgを1日3回経口投与する。 なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日250mg(1回50mgを1日5回投与)とする。 6歳以上の小児には、亜鉛として、通常1回25mgを1日3回経口投与する。 1歳以上6歳未満の小児には、亜鉛として、通常1回25mgを1日2回経口投与する。 なお、いずれの場合も、食前1時間以上又は食後2時間以上あけて投与すること。	既存の剤形(25mg錠、50mg錠)に新剤形(顆粒5%)追加。								
						○低亜鉛血症	通常、成人及び体重30kg以上の小児では、亜鉛として、1回25～50mgを開始用量とし1日2回経口投与する。 通常、体重30kg未満の小児では、亜鉛として、1回0.5～0.75mg/kgを開始用量とし1日2回経口投与するが、患者の状態により1回25mgの1日1回経口投与から開始することもできる。 なお、血清亜鉛濃度や患者の状態により適宜増減するが、最大投与量は以下のとおりとする。										
								<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>最大投与量(1日あたり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成人及び体重30kg以上の小児</td> <td>150mg(1回50mgを1日3回)</td> </tr> <tr> <td>体重10kg以上30kg未満の小児</td> <td>75mg(1回25mgを1日3回)</td> </tr> <tr> <td>体重10kg未満の小児</td> <td>25mg(1回12.5mgを1日2回、又は1回25mgを1日1回)</td> </tr> </tbody> </table>	対象	最大投与量(1日あたり)	成人及び体重30kg以上の小児	150mg(1回50mgを1日3回)	体重10kg以上30kg未満の小児	75mg(1回25mgを1日3回)	体重10kg未満の小児	25mg(1回12.5mgを1日2回、又は1回25mgを1日1回)	
対象	最大投与量(1日あたり)																
成人及び体重30kg以上の小児	150mg(1回50mgを1日3回)																
体重10kg以上30kg未満の小児	75mg(1回25mgを1日3回)																
体重10kg未満の小児	25mg(1回12.5mgを1日2回、又は1回25mgを1日1回)																
								いずれの場合も、食後に投与すること。									

注射薬

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考(薬効薬理、作用機序、注意事項など)
5/26	ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤	フルマゼニル静注0.5mg シリンジ「テルモ」	0.5mg 5mL 1筒	1,180	テルモ	フルマゼニル	ベンゾジアゼピン系薬剤による鎮静の解除及び呼吸抑制の改善	通常、初回0.2mgを緩徐に静脈内投与する。投与後4分以内に望まれる覚醒状態が得られない場合は更に0.1mgを追加投与する。 以後必要に応じて、1分間隔で0.1mgずつを総投与量1mgまで、ICU領域では2mgまで投与を繰り返す。 ただし、ベンゾジアゼピン系薬剤の投与状況及び患者の状態により適宜増減する。	フルマゼニル注射液がシリンジにあらかじめ充填されているプレフィルドシリンジ製剤。調製作業における異物や細菌の混入リスクを低減し、簡便な操作で投与可能。

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考(薬効薬理、作用機序、注意事項など)
5/26	超速効型インスリンアナログ注射液	インスリン アスパルトBS注100単位/mL NR「サノフィ」	100単位 1mLバイアル	218	サノフィ	インスリン アスパルト(遺伝子組換え) [インスリン アスパルト後続1]	インスリン療法が適応となる糖尿病	通常、成人では、初期は1回2～20単位を毎食直前に皮下注射するが、持続型インスリン製剤と併用することがある。 なお、投与量は症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常1日4～100単位である。 必要に応じ静脈内注射又は持続静脈内注入を行う。	インスリン アスパルト(遺伝子組換え) (ノボラピッド: ノボ ノルディスク ファーマ) のバイオ後続品。
5/26		インスリン アスパルトBS注カート NR「サノフィ」	300単位 1筒	746	□			本剤は持続型インスリン製剤と併用する超速効型インスリンアナログ製剤である。 通常、成人では、初期は1回2～20単位を毎食直前に、専用のインスリン注入器を用いて皮下注射する。 なお、投与量は症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常1日4～100単位である。	
5/26		インスリン アスパルトBS注ソロスター NR「サノフィ」	300単位 1キット	1,418				本剤は持続型インスリン製剤と併用する超速効型インスリンアナログ製剤である。 通常、成人では、初期は1回2～20単位を毎食直前に皮下注射する。 なお、投与量は症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常1日4～100単位である。	
5/26	ヒト型抗ヒトTNFaモノクローナル抗体製剤	アダリムマブBS皮下注20mgシリンジ0.4mL「第一三共」	20mg 0.4mL 1筒	20,519	第一三共	アダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続2]	既存治療で効果不十分な下記疾患 ○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎	〈関節リウマチ〉 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続2]として40mgを2週に1回、皮下注射する。なお、効果不十分な場合、1回80mgまで増量できる。 〈尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬〉 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続2]として初回に80mgを皮下注射し、以後2週に1回、40mgを皮下注射する。なお、効果不十分な場合には1回80mgまで増量できる。 〈強直性脊椎炎〉 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続2]として40mgを2週に1回、皮下注射する。なお、効果不十分な場合、1回80mgまで増量できる。 〈多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎〉 通常、アダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続2]として、体重15kg以上30kg未満の場合は20mgを、体重30kg以上の場合には40mgを2週に1回、皮下注射する。 〈腸管型パーチエット病〉 通常、成人にはアダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続2]として初回に160mgを、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、皮下注射する。	アダリムマブ(遺伝子組換え) (ヒュミラ: アッヴィ合同、イーザイ、EAファーマ) のバイオ後続品。 参考 [アダリムマブ後続1]: アダリムマブBS皮下注「FKB」(協和キリン富士フィルムバイオロジクス、マイランEPD合同)
		アダリムマブBS皮下注40mgシリンジ0.8mL「第一三共」	40mg 0.8mL 1筒	39,828	第一三共	アダリムマブ(遺伝子組換え) [アダリムマブ後続2]	○関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む) 既存治療で効果不十分な下記疾患 ○尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬 ○強直性脊椎炎 ○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 ○腸管型パーチエット病		
		アダリムマブBS皮下注40mgペン0.8mL「第一三共」	40mg 0.8mL 1キット	39,828					

外用薬

薬価 収載日	薬効分類名	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売会社名	成分名	効能・効果	用法・用量	備考(薬効薬理、作用機序、注意事項など)
5/26	キノロン系外用抗菌剤	ゼピアックス油性クリーム2%	2%1g	70.20	マルホ	オゼノキサシン	〈適応菌種〉 オゼノキサシンに感性のブドウ球菌属、アクネ菌 〈適応症〉 表在性皮膚感染症、ざ瘡 (化膿性炎症を伴うもの)	本剤の適量を1日1回、患部に塗布する。 なお、ざ瘡に対しては洗顔後、患部に塗布する。	既存の剤形(ローション2%)に 新剤形(油性クリーム2%)追加。
5/26	外用ヤヌキナーゼ(JAK)阻害剤	コレクチム軟膏0.25%	0.25% 1g	141.40	製造販売元/ 日本たばこ産業 販売元/ 鳥居薬品	デルゴシチニブ	アトピー性皮膚炎	通常、成人には、0.5%製剤を1日2回、適量を患部に塗布する。 なお、1回あたりの塗布量は5gまでとする。 通常、小児には、0.25%製剤を1日2回、適量を患部に塗布する。 症状に応じて、0.5%製剤を1日2回塗布することができる。 なお、1回あたりの塗布量は5gまでとするが、体格を考慮すること。	既存の規格(0.5%)に新規 規格(0.25%)追加。